



News Letter

ニュースレター

2022.3 vol.121



尾張四観音の一つ「笠寺観音」の西門



笠寺道くさ社会実験のーコマ



境内で行われる「笠寺フリマクリマ」

特集◎ 笠寺のまちづくり まちをひらいて、人をつなげる

調査研究

高齢者の外出促進に向けたスマートモビリティ共創まちづくり

まちづくり支援

生まれ変わる中川運河にアートの風、到来！

まちづくり来ぶらり

熱田に現れたアザラシ

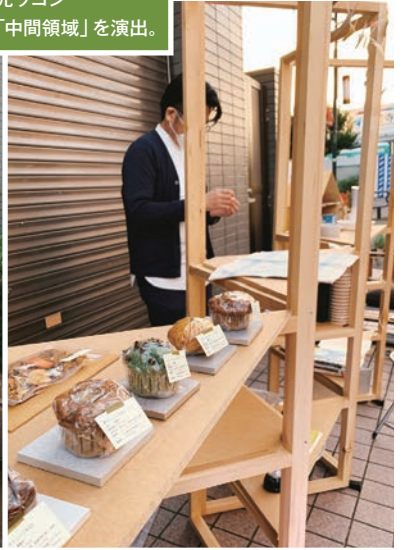
笠寺のまちづくり まちをひらいて、人をつなげる



道くさ社会実験 壁コミュニケーション
通りすがりの人が自由に書き込んでいく。



宮本さん設計の軒先ワゴン
建物と公道の間の「中間領域」を演出。



複数のシェフで「キッチン・時間・空間」をシェアする「かさでらのまち食堂」 現在シェフは待機も含め23組。ほとんどが笠寺以外から。



道くさが、人々をまちへ誘う

名古屋市南区、笠寺観音商店街。尾張四観音の一つ「笠寺観音」として親しまれる天林山笠覆寺の門前に広がる商店街です。江戸時代には、鳴海宿から熱田宮に至る街道筋として人々が行き来した笠寺。名鉄本笠寺駅を降りると、どこか懐かしい下町情緒が感じられます。

この商店街のなか、本笠寺駅前の東西100mの通りを舞台に、2021年10月～11月、1か月をかけて名古屋市の「地域まちづくり活動助成」を活用しユニークな社会実験が行われました。「笠寺道くさ社会実験」。その名のとおり、歩けば2分程度の駅に向かう道

で道くさをしてもらおうというもの。「子どもの頃、石ころ一つあれば道草ができた。じゃあどんな石ころだったら道草するんだろう。それを探したかった」と発案者の宮本久美子さん。笠寺で建築設計事務所を主宰しています。イベントではなく、日常に添ったものとするため、1か月間、毎日、軒下や外壁を借りて、ちょっとした演出を続けました。

コーヒーや雑貨などを日替わりで販売する移動式の「軒先ワゴン」。名古屋市図書館が参加した「ヤドカリBOOKワゴン」、3か所の民地の壁には「壁コミュニケーション」。毎朝出される“お題”に道行く人が書き込んで帰宅時には予想外の展開になったことも。コロナによる直行直帰の現状に、

何かできないかと、いろいろな人が集まり準備を進めたと言います。「店の中にいたら出会わなかった人たちと出会えた。道沿いで何かやっている、デザイン力も伴って雰囲気もいいと思ってもらえれば記憶に残る。自分も何かやろうというきっかけになるかも」と宮本さん。道くさが人の輪を広げることに可能性を感じています。

まちづくりのコンセプトは「シェア」

笠寺観音商店街のまちづくりが始まったのは2007年頃。「自らまちづくりをやってみよう」と愛知県職員だった青山知弘さんが笠寺にやって来て、商店街振興組合の伊藤理事長と意気投合。「かんでらmonzen亭」を立ち上げ



かさでのまちビル外観 第28回
愛知まちなみ建築賞を受賞。「街の
雰囲気好転した」と評された。



無料で貸し出す寺子屋「かさて
らこや」 パーカウンターが以
前の店の面影を残す。

屋上 かんでらmonzen亭の「笠寺ミツ
バチプロジェクト」の養蜂箱が設置。



ました。青山さんのまちづくりは、組織然としていないことがこだわり。「会費も入会規約もない。この街で何かをやりたい人ならだれでも受け入れるのがポリシー。それをみんなで応援します。だから集まった人の数だけプロジェクトは増えていくし、長続きもするんです」。このおおらかなスタンスと、自由にやらせてくれる商店街の懐の深さが、笠寺のまちづくりの土壌を育ててきました。

2018年、笠寺観音商店街振興組合は、名古屋市の商店街再生事業「ナゴヤ商店街オープン」に応募します。これは実際の空き店舗を対象に、ワークショップを通して再生プランを作成し、開業までをめざす実践的な取り組みで、事業初年度のこの年、笠寺観音商店街は他の2商店街とともに選ばれま

した。対象となったのは、築35年の3階建てビルの半地階の店舗。ビルはすでに空きビルで、駅にも近く、まちの顔になることから、なんとかしないとという声は高まっていました。宮本さんたちは「シェア」というコンセプトの下、日替わりシェフの食堂のオープンをめざし、さらにビル全体の改修計画を担うことになりました。怒涛の改修を乗り越えて2019年5月に「かさでのまち食堂」がオープンし、翌年春にはビル全体の改修が完成、「かさでのまちビル」と名付けられました。

人のかかわりがつながるまちへ

今、宮本さんは「シェア」というコンセプトをまち全体に広げようとしています。「小売業は跡継ぎ問題も含めてかなり厳しい。それなら笠寺に点在する

さまざまなスペースをシェアしたり組み合わせたりして、笠寺らしいシェアシステムが生み出せるのでは」。そこで地域にあるシェアハウス、お寺の境内、民泊などを一元的に管理する「笠寺スペースバンク」を立ち上げ、「まち借りツアー」も実施しています。今までにない発想で笠寺のまち全体を使おうという意気込みが感じられます。「人のかかわりがつながってまちができる」と宮本さん。笠寺のまちづくりは、一歩ずつそれを積み重ねてきたのです。



青山知弘さんと宮本久美子さん

撮影時のみマスクを外しています。

かんでらmonzen亭の活動「亀池再生プロジェクト」

地域のシンボルの存在である笠寺観音放生池（通称亀池）。かつて湧き水も出た亀池は、今では水が頻繁に涸れ、水質も悪化。そこで井戸水を注入するなど水質を改善すると同時に、カメや生き物たちにも心地よい環境づくりに取り組んでいます。カメの産卵場所の整備や子ガメの名付け親募集。池の底に溜まった泥を活用してつくった、その名も「輪廻腐葉土」を花のタネと一緒に配布。さらには泥でやきものもつくっちゃおう！配布した花のタネはミツバチが好む種類。まちは花でいっぱいになり、蜂蜜の採取量も増えるとアイデアは無限に広がって、地域の人をつなげています。



亀池で。「究極の夢は笠寺に路面電車を復活させること」と青山さん。



愛知淑徳大学の建築を学ぶ学生による「蓮の花プロジェクト」も進行中。かつて蓮の花が咲いていた亀池の風景を再生させようと、蓮の花を食べてしまう亀と共存し、ランドスケープの一部にもなる蓮の形をした甕を亀池内に制作。

撮影時のみマスクを外しています。



高齢者の外出促進に向けたスマートモビリティ共創まちづくり

高齢者が健康で元気に暮らし続けられることは、自己と社会、双方にとってメリットがあります。名古屋都市センターでは、名古屋大学浦田准教授、大同大学樋口准教授と共同して、「パーソナルモビリティ（以下、PM（※1））」にICT技術を連携した「スマートモビリティ（※2）」を活用することで、高齢者の外出機会を促進し、生き活きと暮らせるまちの実現に向けた方策を探る調査研究を実施しました。ここでは、実際に地元の高齢者にご参加いただいた現地調査についてご紹介致します。

調査の概要

高齢化率が突出した中川区下之一色町をモデル地区とし、地域の情報（デジタル地図）を取り込んだスマートフォンをパーソナルモビリティに取付け、「情報」と「移動」のツールを連携させた「スマートモビリティ」として、まち巡りをする実証実験を行いました。



株式会社キュリオHPより

「正色学区生活安全委員会」が、地域の魅力向上のために作成したデジタル地図「下之一色町案内」を活用

【デジタル地図「下之一色町案内」】とは？

明治以降の同町を写す写真が、年代別に色分けがされ、インターネットの地図上に配置されている。（左図）
任意の地点をクリックすると昔の写真が現れる。（右図）

▶生活安全委員会ホームページより
閲覧が可能。



地点を
クリック！



写真は正統時代に撮影された
地区の氏神「浅間社」

調査の流れ

Step1

「下之一色町案内」の地図から、今日巡る建物を目的地にしてナビを設定。**1**
PMの操作方法の説明及び練習を行いました。**2**



3



4



2



Step2

ナビを開始してまち巡りスタート**3**
参加者は運転を交代しながら、PMの乗り心地や、自分のまちで利用できそうかを確かめていました。目的地では、今と昔の建物の写真を見比べて、昔話に花が咲きます。最初、恐る恐る乗っていた方も、すぐに慣れておしゃべりを楽しみながら運転していきます。**4**



Step3

最後にアンケートにご記入いただき、皆さまから感想をお聞きしました。**5**

調査結果

ほとんどの方がPMの運転が未経験のなかで、「操作は簡単だった」「楽しかった」「PMを使って一人で外出することも可能」とご回答いただいた一方で、道路の舗装の状態（段差やポットホールなど）から、「少し怖いと感じた」と回答された方もいらっしゃいました。

PMは、一見すると特別な乗り物のような印象をうけますが、今回の調査により、それを上手く活用すれば、高齢者の外出支援につなげることが十分に可能であることを確認することができました。今後の課題として、PMの所有形態（個人で所有するのか、グループで共有するのか）や、ICT技術の連携のさせ方の工夫などがあげられます。

（※1）歩行者と既存の乗り物（自転車・原付・自動二輪・乗用車）の間を補完する目的で開発された個人向け（一人乗り）のコンパクトな移動支援機器。

（※2）自動運転やIoTを活用したセンサーなど、従来の交通や移動を変える新しいテクノロジーの総称。



生まれ変わる中川運河にアートの風、到来！



名古屋都市センターでは、中川運河「にぎわいゾーン」の魅力向上をめざし、リンナイ株式会社から寄附を受けて、中川運河を舞台とする市民交流・創造活動につながるアートへの助成を行っています。
令和3年度に行われたアート活動を紹介します。

コロナ禍における新たな鑑賞形式を創作 ■

●ダンスハウス黄金4422

公演「Peeping Garden/re:creation」

開催日：10/1～3

ソーシャルディスタンスを保ち、安心して鑑賞できる「ソーシャルディスタンス円形劇場」が制作され、数十枚の扉

の壁に囲まれた円形空間を舞台に、3人の踊り手による公演が行われました。

観客は各人に割り当てられた扉の「のぞき穴」から鑑賞する仕組みとなっていました。



中川運河の魅力を活かし地域とつながる ■

●中川運河リミコライン

アートプロジェクト実行委員会「運河に描く」

開催日：10/30～31

アーティストのクレメンス・メッツラーさんの原画をもとに、昭和40年代前後の中川運河の風景を実物大パネルにして運河空間に設置し、当時の雰囲気再現。パネルの一部は広見小学校の児童が作成。



●早川 翠

「中川運河と名古屋城築城の歴史」

開催日：9/19

中川運河の前身「笈瀬川」を舞台に、「笈瀬川の河童」等を題材に歴史物語のデジタル紙芝居を作成し、上映会を開催。



●SEAGULL

「Reflection Ring

-運河と街に浮かびあがる円環-」

開催日：10/30～31

松重閘門付近に直径8mの半円を設置し、街に円環を浮かべ、道行く人々を魅了。周辺のものづくり企業と連携し制作されました。

令和4年度のアートは、名古屋都市センターのウェブサイトをチェックしてください！

令和4年度より名古屋市と一体で 地域のまちづくりを応援します！

令和4年度から、都市センターは名古屋市と一体となって地域主体のまちづくりを応援していきます。まちづくり団体への助成については、団体づくり活動から実践活動の段階まで、支援の窓口を都市センターに一本化。わかりやすく、一貫した支援をめざします！その他、これまで名古屋市で行っていた各種サポートも都市センターで行います。

4月より都市センターの
ウェブサイト

人材育成・交流
Human resources

のページが新しくなります。

※各種助成については、令和4年4月から募集開始予定です。詳しくは、都市センターHP「まちづくり活動助成」のページをご覧ください。

Check
してください！



まちづくりライブラリー
全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。



海獣図 大窪昌章/画
(出典:国立国会図書館
デジタルコレクション)より
一部抜粋

熱田に現れたアザラシ

春は潮干狩りに行く方も多いのではないのでしょうか。かつては熱田神宮のすぐそばまで海岸線が迫っていたことをご存知ですか。江戸時代に干拓が進む以前は、現在の港区の大部分と、熱田区と南区の一部は海でした。

記録によると、1833年(天保4年)7月、そのような干拓地の新田に、1頭の高獣が現れました。いきなり現れた珍獣に、名古屋の人々は大騒ぎに。当時の絵師、小田切春江が記した『天保四巳日記 海瀬談話図会(てんぽうよんみにつき かいだつだんわずえ)』、『名陽見聞図会(めいようけんもんずえ)』には、多くの人が海獣を見ようと熱田沖につめかけた様子や、大須の縁日で海獣の手ぬぐいや落雁が売られた様子などが記されています。海獣は発見から数日後、漁師に捕獲され、1か月ほど飼育されました。飼育される間にお手やお腹を見せるなどの芸も覚えたといひます。

名古屋の本草学者であった伊藤圭介は、この海獣を学名「ホカ・レオニナ」(ゴマファアザラシか)と推定しました。本草学は中国から伝わった学問で、薬用にする植

物・動物・鉱物を研究します。江戸時代に盛んに研究され、名古屋にも研究会がありました。本草学者たちはこの熱田に現れたアザラシを写生し、その体長や胴回りを計測し、記録に残しています。

その後、アザラシは見世物とされ、すぐに死んでしまいました。当時の人々も悲しんだことでしょう。

アザラシが現れた新田は、現在の南区加福町付近だとか。現在の工業地帯とは異なり、海と人々の暮らしが身近であった当時の風景を、今に伝えてくれるエピソードです。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

大にぎわい城下町名古屋(2B40-2007)

伊藤圭介と尾張本草学(2B40-2001)

尾張名所図会絵解き散歩(Sc-マ)

古地図で歩く城下町なごや(Se-コ)

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『金魚のきんちゃん 堀川のぼうけん』

著者：森哲郎
出版社：鳥影社
請求記号：Se-ト

「金魚のきんちゃん」が、堀川を泳いで港に着くまでのお話です。名古屋に住む人びとの生活を支えてきた堀川を、昔のような清流にしようという運動が行われてきましたが、それは私たちに、とても大切なことです。次の世代をにう子どもたちに、堀川への関心を呼び起こしてくれるきっかけになる絵本です。



『農山村は消滅しない』

著者：小田切徳美
出版社：岩波書店
請求記号：Qe-オ

著者は、政治的意図が感じられるような「地方創生」では、「地方たため」に他ならないと反論しています。そして過疎化・超高齢化と切実に向きあい、この難問を突破しつつある農山村もあることを、丁寧にその事例を報告し、「地方消滅論」を喝破しています。本書は、農山村に目を向ける契機となる一冊といえます。



『フィランソロピー 企業と人の社会貢献』

著者：出口正之
出版社：丸善
請求記号：Oc-テ

「フィランソロピー」とは、弱者の救済などの公益性の高い分野での寄付活動やボランティア活動のことです。著者は、フィランソロピーの成熟したアメリカでの歴史や様々な活動を紹介しながら、その本質と今後のあり方を提言しました。一読することでフィランソロピーについて理解が深まるでしょう。



1

名古屋都市センター まちづくり広場・ まちづくりライブラリー 再開について

天井工事に伴い令和3年度中休館しておりました11階「まちづくり広場」は、令和4年4月1日(金)より再開を予定しています。

また、平日は休館しておりました12階「まちづくりライブラリー」につきましても、同日より通常営業を再開予定です。

長期間にわたる休館にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

名古屋都市センターはこれからも「まちづくりの交流拠点」として、まちづくりに関わる多くの方々に大いに活用していただけるよう、そして、多くの方々にまちづくりについて学んでいただけるよう、まちづくり広場及びまちづくりライブラリーを運営してまいります。

どうか今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



2

名古屋都市センター 設立30周年記念企画展 「『わたしの好きな名古屋』展」の 開催について

名古屋都市センター設立30周年を記念して、令和4年4月6日(水)から5月29日(日)までの間、名古屋都市センターまちづくり広場(金山南ビル11階)にて、企画展「『わたしの好きな名古屋』展」を開催します。

「働く」「住む」「遊ぶ」など、様々な形で名古屋に関わる皆さまに、この企画展を通して「名古屋らしさ」や「名古屋の魅力」について改めて考えていただきたいと思います。

これまでに当センターの各種事業にご協力いただいている皆さまにはもちろん、そうでない方や、まちづくりについてあまり関心がない方々にもぜひご参加いただきたい企画展です。お誘いあわせの上、当センターまちづくり広場にお越しください。

「わたしの好きな名古屋」展の主なメニュー

- 名古屋の成り立ち・魅力・強みなどを紹介する展示
- 抽選で「アスナル金山お買物券」が当たるSNS投稿キャンペーン
- 大竹敏之さん(名古屋ネタライター)及びナガオカケンメイさん(デザイン活動家)による講演会(要事前申込)

※SNS投稿キャンペーンへの参加方法や講演会の申込方法などの本企画展の詳細情報は、当センター公式HPにてご確認ください。



3

名古屋都市センター賛助会員の募集について

名古屋都市センターの設立趣旨に賛同し、センターの活動を支援してくださる令和4年度の賛助会員を募集しています。当センターの活動にご理解・ご支援いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしております。

《賛助会員の種類》

- ・ 法人会員(年会費 1口50,000円)
 - ・ 学校法人(年会費 1口50,000円)
 - ・ 個人会員(年会費 1口5,000円)
- (期間: 令和4年4月1日から翌年3月31日まで)

《会員特典》

情報提供

- ・ 機関誌「アーバン・アドバンス」、広報紙「ニュースレター」の送付
- ・ 都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内
- ・ 施設見学会

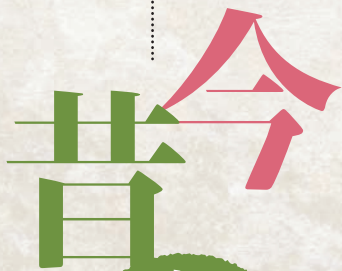
まちづくりライブラリーの利用を優待

貸会議室・ホールの利用を優待 ※法人会員のみ

都市センター出版物の割引販売

《詳細・申込》

名古屋都市センターHPをご覧ください。



大須・大光院
鳥枢沙摩明王
(現在の中区門前町)

大須赤門通の由来の
朱色の山門

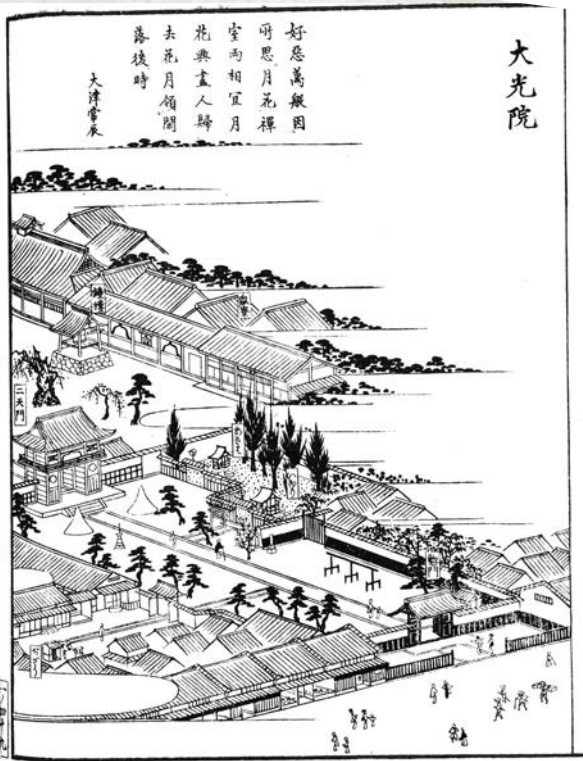
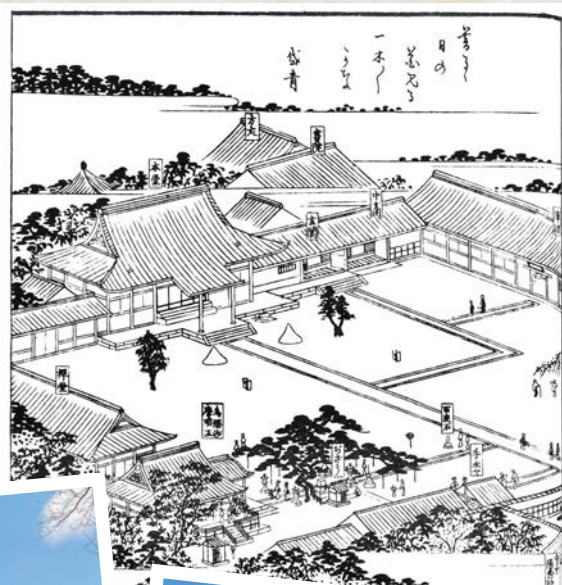
この絵は尾張名所図会に描かれた大須・興國山大光院の様子です。大光院は、慶長8(1603)年に清善寺として創建されました。その後慶長12年に松平忠吉が没するとその法名・大光院をとって寺号を改め慶長15(1610)年に、清須越しで愛知郡日置村(現在の大須2丁目)へ移りました。

1934年に開通し、現在も賑わいを見せる大須「赤門通」はこの大光院の朱色の山門から名づけられました。

赤い山門をくぐると明王殿が目に入ってきます。この明王殿は昭和初期の区画整理によって従来よりも北(中区門前町2丁目)へ移されました。この明王殿では、鳥枢沙摩明王がお祀りされています。すべての穢れを払いのけ浄化して邪気の侵入を防ぐと言われ、東司(厠)の神、下の病の神としてもよく知られ、下半身の病氣平癒にご利益があるとして信仰を集めています。

大光院は昭和20(1945)年の大空襲により焼失、戦後の戦災復興事業に伴い墓地は平和公園に移設され本堂は昭和32(1957)年、山門は昭和41(1966)年に再建されました。毎月28日の縁日では、当時も寺社の多い南寺町周辺でひととき賑わいを見せていたと言われています。現在も毎月28日には“みょうおうさん”縁日が開かれ多くの人びとに愛され、心の拠り所となっています。

大須赤門通



興國山大光院



明王殿



現在の山門と明王殿

〈参考文献〉※()内はまちづくりライブラリーの請求番号です。
「尾張名所図会 前編一」(Sc-o)
「のーと 尾張名所図会 前編一」(Sc-o)

公益財団法人 名古屋まちづくり公社



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>



利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

※令和4年4月1日(金)より

【11階】まちづくり広場
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

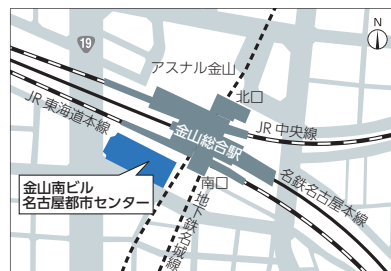
【12階】まちづくりライブラリー

火～金曜日: 10:00～18:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

※休館日: 月曜日(祝休日の場合はその翌日)、
年末年始等

詳細は名古屋都市センター公式webサイト内
「休館カレンダー」にてご確認ください



SNS
やっています!

